



さ り ゆ salut VOL.103

往生は不定に思へば不定
なり、一定と思へば一定す
ることなり。 法然上人



應典院寺町倶楽部主催事業

いのちと 出会う会

毎月第3木曜日(8月・12月・1月休会)
＜應典院研修室B＞
参加費／一般¥1,000
應典院寺町倶楽部会員・学生¥700(お茶菓子付き)

● 5月19日(木)18:30～20:00
第149回「災害救助犬に救われたいのち」
話題提供者：伊藤裕成さん(認定NPO法人日本レスキュー協会副理事長)
日本レスキュー協会は救助犬による人命救助、セラピー犬による心のケア、殺処分0を目指して捨て犬の救助などを行なっています。東日本大震災の日、伊藤さんは救助犬の出勤命令を出し緊急物資輸送など被災地の支援を行なわれ、今も心傷ついている人々に動物とのふれあいで癒しを与える活動もされています。隔日の透析など多くの病気をかかえつつ東奔西走されている伊藤さんの半生を語っていただきます。

● 6月16日(木)18:30～20:00
第150回「この子たちへ家庭の愛とぬくもりを！」
話題提供者：岩朝しのぶさん(NPO法人日本こども支援協会代表理事)
「生きる意味がわからなくなった」「長年うつ病でつらくて死にたい」、電話から聞こえてくる声。関西いのちの電話は1973年の開所以降、約42年間、24時間365日、心の声を聴き続けて来られました。今も年間3万人近い方が自ら命を絶たれる。その命を救いたいと全国で約8000人のボランティアが活動しています。「聴く」とは「寄り添う」とはどういうことか、いのちの電話の実践を話されます。

應典院寺町倶楽部協力事業

詩の学校

詩ってどうやって、つくるんだろう。ひとりで詩を書いているけど、誰かに読んでもらいたい。そんなあなたのための「詩の学校」です。

● 5月18日(水)19:00～21:00
6月15日(水)19:00～21:00
参加費／¥1,000
会 場／研修室B
問合せ／poemschool@kanayo-net.com
※筆記用具、ノートはご持参ください。

大阪吃音教室

吃音を治すことよりも、吃音と上手につき合うことを目指します。毎週金曜日に、実技ワークショップや講義など様々な形式で開催しています。

● 5月13日(金)18:45～21:00
20日(金)18:45～21:00
27日(金)18:45～21:00
6月 3日(金)18:45～21:00
10日(金)18:45～21:00
17日(金)18:45～21:00
24日(金)18:45～21:00
参加費／¥300(初回のみ¥2,000)
会 場／研修室B
問合せ／072-820-8244(伊藤)

ポタラ・カレッジ

ダライ・ラマ法王直系の正統なチベット仏教を日本国内で本格的に学び実践するため、その拠点として設立された団体です。チベットの伝統教学に則した立場を堅持しながら、現代日本の状況に合わせた分かりやすい講習を行っています。

● 5月22日(日)11:00/14:00
6月26日(日)11:00/14:00
参加費／¥3,000
会 場／研修室B
申込み／http://www.potala.jp
問合せ／03-3251-4090(ポタラ・カレッジ東京センター)

應典院公演情報

劇団 太陽族

『執行の七人』
● 6月16日(木)19:30
17日(金)15:30/19:30
18日(土)15:30
19日(日)15:30
料 金／前売¥3,000 学生前売¥2,000
当日¥3,300 学生当日¥2,300
ヘア割引¥5,000(劇団前売のみ取扱)
問合せ／taiyozoku@osaka.email.ne.jp

SxD
2016
スペースドラマ
○應典院寺町倶楽部主催事業○
應典院舞台芸術祭
spacedrama2016
期 間／5月12日(木)～6月12日(日)

劇団カメハウス
『どろどろどろーんぶらすていっく』
● 5月12日(木)19:00
13日(金)19:00
14日(土)14:00/19:00
15日(日)14:00/19:00
16日(月)15:00
料 金／前売¥3,300 当日¥3,800
学生¥2,000(要学生証)
問合せ／kamehouse0806@gmail.com

遊劇舞台二月病
『LEFT～様名ベース到れる～』
● 5月20日(金)15:30/19:30
21日(土)14:00/19:00
22日(日)13:00/17:00
料 金／前売¥2,000 当日¥2,200
学生(要学生証)¥1,500
グループ(3名以上)¥1,800
問合せ／nigatsubyou@gmail.com

劇団冷凍うさぎ
『ヘチカとエトランジェ』
● 5月27日(金)19:30
28日(土)15:30/19:30
29日(日)15:30
30日(月)15:30
料 金／前売¥2,000 当日¥2,500
※各種割引あり
問合せ／reitou0usagi@gmail.com

ステージタイガー
『ランニングホーム』(特別招致公演)
● 6月2日(木)19:00
3日(金)19:00
4日(土)15:00/19:00
5日(日)13:00/17:00
6日(月)14:00
料 金／一般¥3,000
学割¥2,000(大学生含む、要学生証)
問合せ／to@st-tg.net

無名劇団
『無名稿 機械』(協働プロデュース公演)
● 6月10日(金)15:00/19:30
11日(土)14:00/19:30
12日(日)11:00/15:00
料 金／前売¥2,500 当日¥2,800
U-25¥1,500
問合せ／mumeigekidan@kud.biglobe.ne.jp
※6月12日(日)無名劇団公演(15:00開演)終了後にクロージングトークを開催いたします。

今年もお得な全公演共通パスを発売する他、高校生は全公演無料で観劇できるキャンペーンを実施します(要予約)。詳細は特設web <http://2016.spacedrama.jp>をご参照ください。

平成28年熊本地震被災地への支援のため、應典院2階事務所に募金箱を設置しております。亡くなられた方々に哀悼の意を表すとともに、一日でも早く、被災された皆さまに心穏やかな日々が戻りますことをお祈り申し上げます。

OUTEN In 應典院寺町倶楽部 TEL:06-6771-7641 FAX:06-6770-3147 info@outenin.com <http://www.outenin.com>

應典院寺町倶楽部は1997年5月に発足し、非営利市民活動の基盤づくりと活性化を促し、コミュニティの健全育成を図り、創造性豊かな地域社会の発展に寄与することを目的に活動しています。寺院空間を活用した文化・芸術活動のサポーターでありパートナーである方々の参加を広く呼びかけ、随時入会を受け付けています。(会費・寄付は郵便振替口座「00900-2-122125」へお願いします)

サリュ Spiritual 年2回発行(A4版16頁) 第1-9号発行中
仏教及び生死にまつわる数々の現場をドキュメントする雑誌
<http://www.outenin.com>にてPDF版を提供中。

〈編集後記〉
第56号以来「アトセツ」として執筆してきた本コーナーですが、今号からスタッフ一言ずつを寄せる「編集後記」へと変わります。このお寺でどんな人たちが日々を営んでいるのか、感じていただく一助となれば幸いです。

◆ 今年度より浄土宗應典院主幹ならびに應典院寺町倶楽部事務局長に就任しました。皆さんの力もお借りしながら、宗教空間だからこその事業に取り組んでいきたいと思っております。若輩者ですがよろしくお願ひします。南無阿弥陀仏(秋田)
春は日本人の多くが好きな季節。咲き誇る櫻、散りゆく櫻、万感の思いを込めて櫻に人生観をなぞらえるのも、日本人特有の美的感覚なのか。應典院も節目の年を次に迎える春、次年の櫻を思い、水と肥料を連日、日々(齋藤)
2007年から演劇担当として在籍しております。5月12日からはじまる演劇祭に向け、企画運営や広報に追われております。今年の演劇祭は、毎公演ホットドッグを販売します！ぜひとも應典院に足を運んでください！(森山)
舞白全歌が好きで、企画に携わりたいという夢が実現しました。應典院で働くことのできる喜びと楽しみで溢れています。どんなことでも吸収する気持ちを持って、元気いっぱい頑張っていきます。(角居)
ありがたご縁から應典院に関わることになりました。このお寺にいくと呼吸が楽になるので嬉しいですね。そんな應典院のふとした瞬間を日々お届けしたいなと思います。少し人見知りですが、皆さんどうぞ仲良くしてください！(沖田)



**新スタッフ入職
演劇の可能性を探る**

2016年4月より、角居香苗と沖田都の二名が新たにスタッフとして参加しています。二人とも、主に演劇をバックボーンとした学びや活動を重ねてきました。

角居香苗は奈良県天理市に生まれ、兵庫の大学で中高の教員を目指す中で、舞台表現に出会いました。大学卒業後は、演劇の力を教育に活かすことができなかと考え、舞台の照明や音響を勉強するため専門学校に通学するなど、演劇と教育の結びつきをテーマに学びを続けてきました。沖田都は北九州市の大学在学中より、劇団に所属して活動を開始。街の商店街の空きテナントを劇場空間へ改修し、運営事業に携わりました。その後、大阪西成のアートNPOに勤務、生活の中にきらめく演劇的な瞬間を喜びにして、表現について見つめなおす日々を送ってきました。

二人と一緒に、「演劇的な学びとは何か」を探求していくことができるよう願っています。新しい顔ぶれを迎えた事務局をよろしくお祈りします。

去る3月26日、上町台地マイルドHOPEゾーン協議会まちづくり提案事業の報告会が四天王寺本坊で行われました。應典院寺町倶楽部からは「世代間をつなぐ『子どもアート』プロジェクト2015」というテーマで、昨夏に開催したキッズ・ミート・アートの報告をいたしました。

2003年に始まった「上町台地からまちを考える会」から、大阪市都市整備局の補助事業として引き継がれた当事業ですが、この日の総会をもって協議会は解散となりました。2016年度からは自発的な地域ネットワークとして、その役割が新しい世代に継承されます。應典院寺町倶楽部も共に活動を続けていきます。

上町台地のつながりを継承する

寺町に根付いた人形芝居

今年で20周年を迎える「なにわ人形芝居フェスティバル」が、去る4月3日に開催されました。記念すべき20回目となる今回は、過去最高となる9000名の方が来場され、ご家族で下寺町界隈を巡りながら満開の桜を楽しんでいらつしゃいました。

應典院では百鬼ゆめめな「化身」が上演され、艶やかな等身大人形(ひとかた)の娘と山の精霊による演舞が披露されました。また、大連寺境内には10店舗以上の手作り市場が並び、パドマ幼稚園では北海道から来られた人形劇団スリッパ、結成68年の歴史を誇る人形劇団クラルテの公演が順に上演されました。これからもこの盛大な春祭りが続いていくことを願っています。



渡
Report

**山口洋典主幹・事務局局長が退任
決意のバトンを繋いでいく**

10年の歩みを語りなおす

去る3月24日、應典院本堂ホールにて「山口洋典主幹の10年を送る会」が開催されました。山口は2006年に浄土宗應典院二代目主幹および應典院寺町倶楽部事務局長に就任、以後現在にいたるまで應典院における事業統括を担いました。また、並行して大学教員として教壇に立ち続け、近年は東日本大震災の復興支援に尽力するなど、市民僧として社会と寺院をつなぐ多彩な取り組みを行ってきました。任期を終えて2015年度をもって退任するにあたり、秋田光彦(浄土宗大蓮寺・應典院住職、アサダワタルさん)日常編集家、山口悦子さん(医師)、上田假奈代さん(詩人)、戒田竜治さん(演出家、脚本家)、陸奥賢さん(観光家)の6名が呼びかけとなり、秋田光彦の送る会が行われました。冒頭、秋田住職が導師を務めた後、呼びかけ人の皆さんと山口とのリレートークによって10年の活動を振り返りました。それぞれの対話の中で抜かれた問いは、順に「二代目をどう迎えたか?」「何を生み出したか?」「アサダ」「お寺と病院はどうつながるか?」「山口悦子」「アーツカウシルで大阪はどう変わったか?」「上田」「演劇は現代社会をどう扱えるのか?」「戒田」「現代でもコモンズは成り立っているのか?」「陸奥」といった、この間の活動を多様な視点から切り取ったものでした。呼びかけ人の皆さんとともに記憶を辿りながら、そこに込められた想いを語りなおす時間となりました。なお、今年度サリユのコラム欄には、呼びかけ人の皆さんにお一人ずつご寄稿をお願いする予定です。

来た道と行く道を重ねて

リレートークの最後には、2016年度より二代目主幹および事務局局長に就任する秋田光軌(浄土宗大蓮寺副住職)が登場し、「20年後の應典院はどうなっているのか?」という問いについて、山口と応答が交わされました。秋田光軌からは「他者の願いを聞き取りながら事業を形作る、山口の姿勢を引き継いでいく」、また「上から引っ張り上げるリーダーでなく、皆のところに積極的に降りいく者でありたい」と、今後の活動に向けて決意が語られました。奇しくも山口の主幹就任時と同じく、30歳での新主幹お披露目となりました。

その後は、気づきの広場会場所を移しての大宴会となり、参加者の方にもおこぼをいただきましたながら歓談の場



撮影:今田修二



をもちました。たくさんの笑顔が溢れる和やかなひとときを過ごし、最後は山口からは「3月末をもって選任する決断をしたが、これからもどりの念仏者として愚者の自覚を忘れずに努めていきたい」と退任にあたっての挨拶がありました。

当日の参加者には、2008年7月発行のサリユ第56号以降、アトセツ(幕が下りた後の説明の意)として山口が毎月執筆した文章を収めた、記念の冊子をお渡ししました(ご希望の方は事務局までご連絡ください)。その中でも述べられているようにリニューアルということばの中

にある「Re」という接頭語は、続くことばに対して再び、という意味を付与します。2017年に再建20年を迎える浄土宗應典院そして應典院寺町倶楽部も、これから様々な形でリニューアルを試みることでありますが、同時にこれまでの歩みを「再び引き受ける営み」となるよう努めてまいります。

Interview

**hige(ステージタイガー 代表)
虎本剛さん(ステージタイガー 作演出)**

かつて託された願いを、今、引き受けて。「可能性の交差点」で育まれた劇団が、最後の演劇祭を全力で駆け抜ける。

輝...



1997年から継続して行ってきた應典院舞台芸術祭(space×drama)を今年度ももって終了し、新たな事業の形を模索することとなった。その歴史の最後を飾るspace×drama2016が、5月12日(木)よりスタートする。前身の「特攻舞台Bakemon」で2008年度優秀劇団に選出され、今年度は「ステージタイガー」として特別招致枠での参加となるお二人に話を伺った。

— 2008年度優秀劇団に選出されるまでの歩みを教えてください。虎本(以下T) 関西大学在学中、演劇サークルから特攻舞台Bakemonを旗揚げしました。人がやっていないことをするのをポリシーにしていた、とにかく目立ちました。色んな演劇祭に応募する中で、はじめてspace×dramaに参加したのが2003年度です。好きな劇団が使っている憧れの場所でしたが、集客面でも苦勞する結果となりま

— 久しぶりでspace×dramaに帰ってきて、印象はいかがですか。T 情報が簡単に入手できる時代になったのに、参加劇団が減少しているのはもったいない。最近の若い劇団の技術は昔よりレベルが上がっているので、自信をもって挑戦していけば、それに見



▲第6回公演「アップ・ダディ・ダウン」より(2016年1月23日・24日=近鉄アート館)

— 久しぶりでspace×dramaに帰ってきて、印象はいかがですか。T 情報が簡単に入手できる時代になったのに、参加劇団が減少しているのはもったいない。最近の若い劇団の技術は昔よりレベルが上がっているので、自信をもって挑戦していけば、それに見合った成果が返ってくるはずなんです。H ネットの影響もあり、若い劇団と上の世代の距離が近づいている感じはします。いきなり制作に有名な人がつくなんて、以前は考えられなかった。僕らは大きく売れていくのを劇団のゴールに設定してはいたけれど、今は狙っている着地点がそもそも違うのかもしれません。— 最後に、今年の演劇祭にかける意気込みを聞かせてください。H この演劇祭を価値あるものにしたと、制作者会議でも一貫して発言してきました。僕らはきつと背中を見られているので、少しでも参加劇団の刺激になり、演劇祭の魅力が伝わるように動んでいきます。T 2008年にキャンピオンベルトを託されたのに、輝かせる前に一度捨ててしまっただけで、今このポジションで参加する以上、自分たちの公演が盛り上がりつつ終わりはなく、この演劇祭全体を潤さなければならぬ。全劇団全スタッフに満員になるために何ができるか考え、実行することが、ベルトを持っている人間に役割だと思っています。

Column

「山口洋典主幹の10年を辿る」

第1回 市民僧、誕生

「市民僧」ということばは、私の造語である。90年代の終わりから00年代初期にかけて、市民社会とか市民団体とか、大きな「市民ブーム」が起きていた。「市民」が新しい公共の担い手として注目された。それは、それとは真反対な「僧」ということばを接続させたのは、当時の私の思いがあったからである。

1997年に再建された應典院の別名は「市民参加型寺院」。また耳に新しいNPOが引きも切らずやって来て、現在の社会拠点の基盤を成した。その初期にあたる。確かに新しい時代の気運もあった。だが、それ以上に、自己の利益を顧みず、社会的使

秋田光彦(浄土宗大蓮寺・應典院住職、パドマ幼稚園園長)

1955年大阪生まれ。明治大学文学部演劇学科卒業後、東京の情報誌「ぴあ」を経て、映画制作会社を設立。プロデューサー兼脚本家として「狂い咲きサンダーロード」「舞裂都市」などを発表。1997年に浄土宗應典院を再建、初代主幹としてコミュニティ・地域資源のあり方を具体的に提案し、市民活動や若者の芸術活動を支援してきた。また、人生の末期を支援するエンディングサポーターをNPOと協働して取り組むなど、「協働」と「対話」の新しい地域教育にかかわる。2009年、パドマ幼稚園園長に就任。近著に、責任編集を担当した「生と死をつなぐケアとアート」(生活書院)など。

命や貢献に生きようとする人々の姿に、「菩薩行」のあるべき姿を見ていたからだ。ヒューマンズムというのではない。他者の痛みや悲しみに寄り添う慈悲の心が立ち現れる。その人格を、私は「市民僧」と名付けたのだ。

「お寺は元祖NPO」と言って、多くのNPOの理論家や実践家と交流を続けたが、どこでも歓迎されたわけではない。市民社会では宗教はタブーだから、と高名な活動家から面と向かって言われた。剃髪と墨染めの僧侶が公共世界に参加するには、まだ時間を必要としたのである。

2001年、大学コンソーシアム京都に「寺子屋NPOフォーラム お寺と市民の協働を考える」の企画を持ち込んだ時、利発な若者が職員として窓口を担当してくれた。彼は阪神淡路大震災のボランティア経験をもとに、NPOの世界に入ったという。「京都には宗教系大学がたくさんある。一緒に呼びかけましょう。」

それが、のちに應典院二代目主幹となる山口洋典との出会いだ。寺に生まれたわけでも、仏教学を修めたわけでもない。しかし、救済の現場から強烈な使命感と貢献意欲を備えた異色の人材が現れた。タブーを超えて、こころに袈裟をかけた「市民僧」が登場したのである。

僧



撮影:今田修二